

## 中国人日本語学習者における多義基本動詞の習得に関する一考察

王 毓茜 日本語教育学分野・専門 博士前期課程2年

はじめに 多義語は「同一の音形に、意味的に何らかの関係を持つ二つ以上の意味が結び付いている語」(国広1982: 97)と定義づけられ、日本の大学及び大学院で学ばいわずに学習に成功した上級日本語学習者にとっても、習得の難しい項目であるとされている。本研究は先行研究を踏まえ、中国で日本語を外国語とする学習環境(以下「JFL環境」と記す)の中国人日本語学習者(以下「CJL学習者」と記す)の多義基本動詞派生義の習得において、①多義動詞派生義の透明性がどれほど高いと考えられるか、②学習者の派生義意味理解に影響する要因は何か、という2つの研究課題を明らかにすることを目的とする。

調査の概要 報告者は2018年5月から6月にかけて、中国の上海外国語大学にて3つのテストとフォローアップインタビュー調査を行った。調査対象者は、上海外国語大学の日本語学科に在学している中国人日本語学習者(学部2年生～大学院2年生)計20名である。研究課題1については、麻生(2014)を参考に、透明性テストとフォローアップインタビューを実施し、対象語の派生義のCJL学習者にとっての透明性を検討した。研究課題2については、調査協力者の日本語語彙能力を測定するための語彙能力テスト(宮岡・玉岡・酒井2011)及び、対象語の意味理解の程度を測るための意味理解テストを実施した。その後、学習者の第一言語である中国語に対応する語における共通している語義の有無、意味拡張関係の種類、意味拡張の回数と学習者の日本語語彙能力の4つを要因として設定し、決定木分析を用いて検討した。

考察 その結果、まず、JFL環境での中国人日本語学習者にとって、中国語と共通している語義がある派生義は中国語と共通している語義がない派生義より透明性が高い傾向が見られ、透明性の高低はその派生義の意味拡張関係の種類と密接に関係しており、メトニミーに基づき拡張された派生義はメタファーに基づき拡張された派生義より透明性が高いことが示された。また、多義語派生義の透明性は語固有の性質であり、透明性の高低は意味拡張関係の種類と密接に関係していることが示された。

そして、JFL環境での中国人日本語学習者の多義語派生義の意味理解に影響する要因として、中国語と共通している語義の有無、意味拡張関係の種類、意味拡張の回数の3つがあげられる。その中で最も強い要因となったのは中国語と共通している語義の有無であり、中国語と共通している語義がある場合、学習者の日本語語彙能力にも関わらず、全般的に理解度が高い。その一方、中国語と共通している語義がない場合、学習者の意味理解は派生義の意味拡張関係の種類に強く影響され、シネクドキー>メトニミー>メタファーの順に理解度が高い傾向が見られた。

### 参考文献

- 麻生迪子(2014)「多義語派生義の学習法に関する考察—学習活動・習熟度・透明性の観点から韓国人日本語学習者を対象にして—」九州大学大学院比較社会文化学府博士学位論文。  
 国広哲弥(1982)『意味論の方法』大修館書店。  
 宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘(2011)「日本語語彙テストの開発と信頼性」『広島経済大学研究論集』34(1), 1-18.